

【課題】

- ・増加する海外からの直接編入への対応および支援の在り方
- ・日本語指導を必要とする児童生徒の散在化および多言語化
- ・巡回指導等の指導体制の整備
- ・通訳、翻訳業務の人材確保
- ・ICTを活用した効果的な日本語指導
- ・多文化共生教育の推進

【実施事業の概要】

- ・日本語指導の体制整備

①初期日本語指導

(1日5コマ×5日=25コマ、抽出)

- * 直接編入への対応

②初期日本語指導クラス

(35コマ、抽出)

③学習言語支援(抽出、入り込み)

- ・日本語指導対応研修の実施
- ・加配教員配置校連絡会(管理職部会・担当教員部会)の開催
- ・巡回指導の実施
- ・通訳派遣、翻訳業務
- ・ICTを活用した情報発信
- ・多文化共生教育の推進
- ・民族クラブの活動支援
- ・進路支援のための八尾連絡会および多言語進路ガイダンスの実施

少数在籍校における指導・支援体制

海外からの直接編入に対する支援

日本語指導担当加配教員による巡回指導



- ・校内支援のアドバイス・教材提供
- ・「特別の教育課程」の編成支援
- ・ケース会議、保護者との連携・関係機関との連携
- ・対話型アセスメントDLAの実施方法に関する支援
- ・多文化共生教育のコーディネート

対話型アセスメント

DLA: 診断シート評価
点の向上(70%)
またはステージの向上
(1ステージ)

「特別の教育課程」による
個別の指導目標の達成
(80%)

「ことばの力のものさし」
による見取り

【成果と今後の課題】

- ・「特別の教育課程」の編成により、児童生徒の実態に応じた支援につなげることができた。
- ・直接編入の際には、抽出による25コマの初期日本語指導を専任の教員が集中して実施することにより、児童生徒や保護者の安心および学校へのスムーズな受け入れに対応できた。
- ・多言語進路ガイダンスの実施により、主体的な進路選択につなげられた。
- ・多文化共生教育の推進による、児童生徒のアイデンティティの保持増進につなげることができた。
- ・今後も直接編入等の増加が見込まれることから、さらなる支援の充実を図るための体制を構築していく。
- ・「ことばの力のものさし」による見取りを深めるために、研修等を通じて指導力の向上を図る必要がある。
- ・通訳人材の確保が必要である。